

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、外出関連消費が好調なことなどから、緩やかに回復しつつある。生産活動は、半導体不足の改善などから、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	緩やかに持ち直しつつある	↗
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超となっている	「上昇」超幅が拡大している	→
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→
輸出	前年を下回る	前年を上回る	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、百貨店販売は、衣料品などが低調であり、前年を下回っている。家電販売は、暖房器具などが低調であり、前年を下回っている。ドラッグストア販売は医薬品などが好調であり、前年を上回っている。スーパー販売は、外出関連用品などが好調であり、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、普通乗用車、軽乗用車が好調であり、前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 暖かい日が多く、衣料品を中心に秋冬物の動きが鈍かった。（百貨店）
- 暖かい日が多く、エアコンなどの暖房器具の売行きが不調である。（家電販売）
- インフルエンザの流行などにより風邪薬が好調な状況が続いている。新店効果もあり、客数・売上とも伸長している。（ドラッグストア）
- 物価高による消費者の節約志向があるものの、外出の増加により、キャリーケースなどの外出関連用品は引き続き好調。年末年始は、帰省して大人数が集まって飲食する機会が増加し、大型のオードブル・寿司・焼肉用食材などが好調となった。（スーパー）
- 半導体不足の緩和により、完成車メーカーからの供給台数が増えたことから、納車待ちの状況の解消が進んでおり、登録台数が前年を上回っている。（自動車販売）
- 旅行需要は引き続き好調で、観光客やビジネス客が増加している。コロナ禍で休止していた航空便の再開に伴い、外国人観光客も順調に増加している。（旅館組合）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

電気機械は、中国の景気回復の遅れなどから減少している。鉄鋼は、海外向けの需要が低調なことから減少している。一方、輸送機械は、半導体不足の改善などから増加している。化学は、インフラ向け樹脂原料などの需要が堅調であることから増加している。汎用・生産用・業務用機械は、食料品向けの需要が堅調であることなどから増加している。このように、生産活動は、全体では、緩やかに持ち直しつつある。

- リモートワーク特需の在庫消化が続いていることからパソコン向けで生産量が減少しているほか、中国の景気回復の遅れによる影響を受けて、スマートフォン向けやテレビ向けの生産量も減少している。（電気機械）
- 自動車向けの需要は堅調なものの、中国の不動産市況の回復遅れなどから、海外向けの生産量が減少している。（鉄鋼）
- 半導体の供給制約が改善する中、海外販売が好調なことから、生産量が増加している。（輸送機械）
- 中国経済の低迷による影響は続いているものの、インドでの建設需要が旺盛なことを受け、インフラ向け樹脂原料の需要が堅調なことから、生産量が増加している。（化学）
- コロナ禍からの回復やインバウンドの増加により、食料品向け包装機械の生産が増加傾向にある。（生産用機械）

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、引き続き高水準で推移している。新規求人数は、前年を下回っているものの、ほぼ横ばいで推移している。このように、雇用情勢は持ち直している。

- 特に設計部門の人手が足りていないため、受注済み案件への対応で手一杯の状況であり、新規受注の機会を逃してしまうことがある。人手不足への対応として、設計部門では外注先の新規開拓や技能実習生の採用を進め、営業部門では人材派遣会社を活用している。（生産用機械）
- 観光需要は回復を続けているものの、人手不足の影響から、稼働客室および食事付きプランの提供を抑えるほか、休館日を設定するなど、現在の従業員数で対応できるような営業形態をとる旅館が見受けられる。（旅館組合）
- 10月に最低賃金が上がったため、パート・アルバイトの時給を引き上げているが人手が確保できない。（小売）

- **設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年10-12月期
- 製造業では、「その他製造業」などで減少するものの、「自動車」、「化学」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「小売」などで減少するものの、「電気・ガス・水道業」、「運輸、郵便」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 新型車向けの設備投資を実施。（自動車）
- カーボンニュートラル関連の設備投資を実施。（電気・ガス・水道業）

- **企業収益 「5年度は減益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年10-12月期
- 製造業では、「自動車」、「パルプ・紙・紙加工品」などで増益となるものの、「化学」、「鉄鋼」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）では、「宿泊・飲食サービス」、「医療・教育」などで増益となるものの、「学術研究、専門・技術サービス」、「運輸、郵便」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **企業の景況感 「『上昇』超幅が拡大している」**（全産業）「法人企業景気予測調査」5年10-12月期
- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超幅が拡大している。なお、先行きは「下降」超に転じる見通しとなっている。

- **住宅建設 「前年を下回る」**
- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅、給与住宅が増加しているものの、持家、貸家が減少していることから、前年を下回っている。

- **輸出 「前年を上回る」**
- 輸出（円ベース）は、石油製品などが減少しているものの、自動車、船舶などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジアなどで減少しているものの、北米、西欧などで増加している。なお、輸入（円ベース）は、石炭、原油及び粗油などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、アジア、大洋州などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
広島県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、外出関連消費が好調なことなどから、緩やかに回復しつつある。生産活動は、半導体不足の改善などから、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
鳥取県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。